

委員会の焦点

～委員会審査報告から～

ならい荘増資を可決

経済建設委員会

経済建設委員会は10、11日の両日開き、平成18年度一般会計歳入歳出決算認定や同年度水道事業会計決算認定、平成19年度一般会計補正予算など12議案を審議し、原案通り可決しました。同補正予算案のならい荘出資金につ

いては、3年後の平成21年度に単年度の黒字化を求める意見など、議論をつくし可決しました。

今年度一般会計補正予算案のうち、議論に最も時間を割いたのは商工費の観光振興事業、株式会社ならい荘出資金1千500万円について。委員からは、経営改善の可能性や経営黒字化の疑問点などがた

されたほか、施設の老朽化に伴う抜本的な改修の必要性や、早期の施設払い下げも選択肢とすべきという指摘もありました。これに対して、市側は、論点をまとめた経営改善計画、経営状況の説明資料を提出し、「今回の増資によって、今後は運転資金の投入や債務保証を一切しない」と強調して、理解を求めました。



1,500万円を増資するならい荘
今後の経営改善に注目が集まる

児童館の指定管理者への委託を議論

福祉教育委員会

当委員会に付託された案件は12件であり、決算案件では平成18年度決算認定が主で、原案のとおり認定する事としました。

条例案件では、洗馬児童館がふれあいセンターとの複合施設となるため指定管

理者制度の導入を可能とする条例について、採決の結果賛成多数で可決となったが、選定については市民にわかりやすい方法をとってほしい旨の意見が出されました。

平成19年度補正予算の総合運動場駐車場整備工事は、駐車場不足で大会時や保育園の送迎時に危険であり近隣住民や体育協会等の団体から整備



委員会終了後、特養施設にあるユニットケア設備等を視察した

要望が多数出されているとの説明を受け、原案のとおり認める事としました。

委員会終了後、片丘の特養施設と、信州大学大学院や民間企業との産学官の連携が行われている大門の塩尻インキユベーションプラザを視察しました。

18年度決算審査 不納欠損に意見集中

総務環境委員会

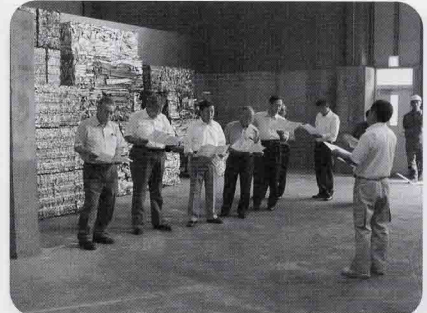
総務環境委員会で、決算案件4件、条例案件4件、事件案件2件、予算案件2件の12議案を慎重審査し、いづれも原案のとおり認める事としました。

平成18年度決算の中で各委員より指摘の多かった不納欠損

処理については、企業倒産や生活困窮等が主な原因であるとの事であるが、現年度分収納に勤め、滞納が無いよう対応し、不納欠損が増えない努力をする事等の改善を求める意見が多く聞かれました。

また高齢者医療制度に関する請願と議員提出議案の2件について現時点では国及び県の内容が決まらない為、請願

は継続審査、議員提出議案は否決となりました。三位一体改革や景気動向等、変動要因が多い中で、塩尻市の健全な予算執行と行政運営に議会、行政とともに努力し、厳しい経済状況下で、市民にも協力を求め、質の高い行政サービスが図られるよう委員会として活動していきたい。



委員会終了後、市内のプラスチック中間処理施設を視察した